

わが町ゆかりの人物を訪ねて(その2)

淡嶋 英昭

我が町にゆかりのある人物について、前回は石碑や住居が残る人物について紹介しましたが、今回は(その2)と題して、私たちと同時期に生きるゆかりの人物について調査しました。名前をご存じの人も多いと思いますのでこの機会に思い出して戴けたらと思います。前回同様ズボンのポケットにスマホを入れて歩いてきましたので、その内容を紹介します。



9

昭和初期から戦後にかけてボクシング界を牽引した伝説のボクサー ピストン堀口

1936年(昭11)22歳の時にフィリピンの英雄グスマンを破り人気が一気に上昇する。1941年(昭16)「槍の笹崎」との一戦は、日本ボクシング史上「世紀の一戦」と呼ばれるほど有名で、この試合に勝利して以降は、「剣聖」宮本武蔵になぞらえて「拳聖」と称されるようになった。その戦法は、対戦相手をロープに追い詰めて休まぬ左右の連打がブレーキのない機関車を想起させることから「ピストン戦法」と呼ばれた。日本及び東洋フェザー級と日本ミドル級チャンピオンを獲得したが、太平洋戦争の影響で世界王座を獲得する機会には恵まれなかった。

1950年(昭25)現役引退から半年後、泥酔して寝過ごし茅ヶ崎に戻る途中、馬入川鉄橋上を歩き貨物列車に撥ねられて36歳の若さで死亡した。駅から徒歩15分「海前寺」で眠る。1937年(昭12)茅ヶ崎に居住し自身の練習場として開設したジムは「ピストン堀口道場」として長男が引き継いでいる。

デビューから5引分けを挟んで47連勝、最多試合(生涯600試合)、最多勝利、最多KO、最多連勝などの日本記録は二度と破られないと言われる。176戦138勝(82KO)24敗12引分け。



ピストン堀口が眠る 海前寺



四角いリングを型どった墓に「拳闘こそ我が命」と刻印されている



リングネームは「堀口恒男」だが新聞で使われたピストン堀口の呼称が定着してしまった。

堀口の連打が始まると「ワッショイ!ワッショイ!」大合唱

梶原一騎 あこがれの存在ピストン堀口は「あしたのジョー」のモデルになった

経済界の裏面を暴いた「総会屋錦城」で直木賞を受賞した城山三郎は、1957年（昭32）静かで落ち着いた仕事ができる茅ヶ崎に転居しました。海に近く毎日のように水泳など楽しむと共に月3回愛知学芸大学まで4時間半かけて通勤したが、この時間は読書や講義準備に充てる至極の時間であったと言います。同様に、東京まで2時間の通勤時間を利用して作曲した山田耕筰もこの仕事ぶりを見たら驚くかもしれません。

自宅書斎は、家族も寄せ付けないほど厳重に遮断され自分の聖域としていたが足の踏み場もないくらい本であふれ出したので、自宅とは別に茅ヶ崎駅前の相模湾が一望できるマンションの一室を仕事場とするようになりました。茅ヶ崎に住む年代の芥川賞作家「開高健」とはお互いの家を訪問するなど親交が深かったと言います。2000年（平12）愛妻容子急逝後、約1万5千点の蔵書を生まれ故郷の名古屋市に寄贈。川上音二郎亡き後に再婚した貞奴の別邸「文化のみち二葉館」に所蔵され一般公開している。2007年（平19）間質性肺炎により79歳で死去。

「読者とお前と子供たち、それこそおれの勲章だ。それ以上のものは要らない」と言い国の叙勲を辞退した。



城山三郎



自宅書斎風景



文化のみち二葉館

名古屋市「文化のみち二葉館」



愛妻容子との結婚から別れの日々を書いた回想録「そうか、もう君はいないのか」はテレビドラマになった

大ヒット曲「また逢う日まで」の歌手として知られた尾崎紀世彦は、1949年（昭24）6歳の時に茅ヶ崎に転居。近所に住む兄弟デュオ、ブレッド&バターの家で遊んでいる。13歳の時に父からもらったウクレレがきっかけでハワイアンバンドを組みデビューする。

1971年「また逢う日まで」が100万枚のミリオンセラーとなり、同年の日本レコード大賞と日本歌謡大賞をダブル受賞し、NHK紅白歌合戦にも3回出場している。茅ヶ崎初のレコード大賞受賞者である。

趣味は、サーフィンや神輿担ぎが好きで浜降際で神輿を担ぐ姿を見た人は多数いる。2012年（平24）肝臓癌により69歳で死去。茅ヶ崎北部の大庭トンネルを抜けた場所にある「大庭台墓園」で眠っている。



尾崎紀世彦 【至言】

歌は白で送って
聞いているお客さんが色を
付けて良いメモリーにして頂
くとうれしい

愛称は「キーヨ」
迫力ある伸びやかな歌声と髭ともみあげが
トレードマーク

藤沢大庭台墓園に眠る

俳優、オーケストラ指揮者で「パシフィックホテル茅ヶ崎」の共同オーナー 上原 謙

加山雄三の父であり日本映画界を代表する二枚目スター上原謙は1936年(昭11)明治の元勲であり500円札の肖像になった「岩倉具視」の孫である小桜葉子と結婚。翌年加山雄三が生まれたが、病弱だった雄三のために1939年に静かで海に近く自然環境の良い茅ヶ崎に転居した。自宅から海に至る道は「上原謙通り」と言ったが2001年「雄三通り」に名称が世襲されている。

1965年(昭40)茅ヶ崎のシンボルになった「パシフィックホテル茅ヶ崎」の共同オーナーとなり経営にあたるが二十数億円の借金を抱え1970年(昭45)に倒産、廃墟となった建屋は1998年取り壊し、その姿は茅ヶ崎から消えた。小桜と死別後の1975年67歳の時に加山家の反対を押し切って38歳年下の銀座クラブホステスで上原を平気で「おっちゃん」と呼ぶ大林雅美と再婚しマスコミの脚光を浴びるが1991年離婚。同年急性心不全により82歳で死去した。

加山は、会見で「この一年半は心労が続き、静かな老後を送らせたかった」と涙をこらえながら語っている。



上原謙



加山雄三



湘南海岸にひときわ高くそびえる「パシフィックホテル茅ヶ崎」

大林雅美は、自らの不倫騒動などで世間を騒がせ「悪女」「ためき顔」などの流行語を生んでいる。

桑田佳祐はホテルのボーリング場でアルバイトしており、2000年に「HOTEL PACIFIC」を作曲している

茅ヶ崎市民栄誉賞を受賞した二人の宇宙飛行士 土井 隆雄 と 野口 聡一

土井隆雄・・・スペースシャトル「エンデバー号」に搭乗し、自身2度目の宇宙飛行を成功させ日本の実験棟「きぼう」の建設に大きな役割を果たす

野口聡一・・・日本人5人目の宇宙飛行士として、スペースシャトル「ディスカバリー号」に搭乗し、史上初めてとなる宇宙での機体補修、計3回宇宙で船外活動を成功させた

学生時代に茅ヶ崎の実家で過ごした土井隆雄

小学校から高校まで茅ヶ崎で過ごした野口聡一



土井隆雄

ラチエン夫人朝於(アサオ)と遠い親戚にあたる土井は、実家近くの「ラチエン通り公園」に「きぼう」にちなんで「きぼうの桜」を植樹している



茅ヶ崎駅北口「手形ロード」にある両宇宙飛行士の手形



野口聡一



STS-114の乗組員

2005年10月2日開催された野口聡一帰国報告会とディスカバリー号搭乗員と共に市内パレード



おわりに、「わが町ゆかりの人物を訪ねて」と題して2回に渡りわが町を紹介しました。新型コロナの流行は終息に近いと思う人も少なくありませんが、今後も拡大期と収束期を繰り返し当分続きそうです。3年間開催中止だった祭りも今年は開催決定。今はコロナを忘れて祭りを楽しんでいます。



4月30日に開催された大岡越前祭りパレードの様子